

## ほほえみ 第30号



ほほえみも、おかげさまで30号を迎えました。最初は、月一回の発行でどこまで続くのか不安な状況でもありましたが、読んでくださる方もあって、何とか続けてこられたと思います。取り上げたテーマも、化学療法や、医療制度的なものもありますが、その他に、新渡戸稲造に関する話題、がん哲学、心理学のようなものまで含んでおり、個人的には、この間に様々な人々との出会い、啓発があったので思い返すことは多々あります。拙い文章ではありますが、情報交換の意味でも、今後とも、宜しく願い申し上げます。

## 「ほほえみ」とは

がん化学療法科のニュースレターは、最初、名称が未定でした。第6号から「ほほえみ」という名前で発行しています。初めて、ほほえみとなった第6号の話題は、微表情についての話題でした。表情の研究者である、ポール・エクマンの研究成果を取り上げて紹介しています。

その後、2年が経っていますが、ほほえみと当時名付けたのとは違う意味でも、ニュースレターに相応しいと思うようになっていきます。二つ程理由があるのですが、その一つは、無財の七施というものです。無財の七施というのは、元々、仏教の用語です。仏教の修行に、六波羅蜜というものがありますが、布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧の6つを言います。この筆頭の布施とは、人に施すというものです。中でも、お金、財産、特別な能力がなくても行える、しかし、奥深い布施が無財の七施だと思えます。

無財の七施は、慈眼施(優しい眼差し)、和顔施(和やかな微笑み)、愛語施(心のこもった言葉)、身施(快くお手伝い)、心施(心遣い)、床坐施(席を譲る)房舎施(宿を貸す)といったことです。二番目の和顔施は「ほほえみ」のことですね。誰にでも出来そうですが、いざ思い立ってもなかなか、すっとできるというのは難しいことでもありますね。

もう一つは、最近読んでいた、ダンテの「神曲」です。この中で、重要な登場人物として、ベアトリーチェという女性が出てきます。ダンテは、地獄と煉獄をローマ時代の詩人であるウェルギリウスに導かれて、天国をベアトリーチェに導かれて遍歴するのですが、ウェルギリウスは「理性」の象徴であり、ベアトリーチェは、「愛、信仰」を象徴するものとして描かれています。

ベアトリーチェは、ダンテを天国に案内し、10層からなる天を順番に巡っていくのですが、階層が上がると、その瞬間に、ベアトリーチェの美しさが増していく、光り輝いていくのです。レベルが上がると、ダンテが知らない間に次の天に昇っている。それを、ベアトリーチェの輝きで知るのです。ダンテの発想が素晴らしいですね。

その、ベアトリーチェの第一の真実(美)は、眼差しと言われており、第二の真実(美)は微笑と言われているのです。ダンテの当時のスコラ哲学では、眼差しにこそ真実が表され、それを表現するものが微笑であると考えていました。

東洋でも、西洋でも、眼差し、そして「ほほえみ」に、真実が宿る、自分と他者をつなぐ、大切な絆であるという考えにおいては共通する、普遍的なものです。「ほほえみ」の重要性をこれほど示すものはないように思います。今後とも、「ほほえみ」の初心を忘れないように、発行していきたいと感じています。

## 六波羅蜜

布施  
持戒  
忍辱  
精進  
禪定  
智慧

## 無財の七施

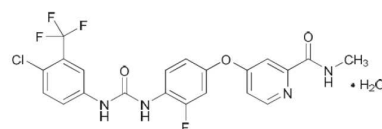
慈眼施  
和顔施  
愛語施  
身施  
心施  
床坐施  
房舎施



ベアトリーチェとウェルギリウス

## レゴラフェニブ（ステバーガ）が製造販売承認されました

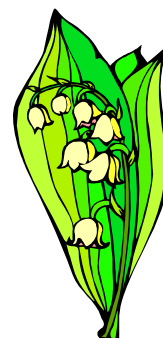
レゴラフェニブ(ステバーガ)は、2013年3月25日に、治癒切除不能な、進行・再発結腸・直腸癌に対し、製造販売承認されました。結腸・直腸癌に対しては、これまで抗体薬である、ベバシズマブ(アバスタン)、セツキシマブ(アービタックス)、パニツムマブ(ベクティビックス)が承認されていましたが、この領域では国内初の、低分子化合物での分子標的薬となります。内服薬であり、がん細胞で活性化されている、複数のチロシンキナーゼを阻害する薬剤です。血管新生阻害、細胞の微小環境に作用したり、増殖抑制をもたらすと考えられています。今のところ、薬価が決まっておらず、5月末から6月に使用可能となると考えられます。



レゴラフェニブの構造式

## スタッフ紹介

3月11日より消化器内科からがん化学療法科へ異動になりました川原恵理奈です。外来の皆様が安心して話せる暖かい雰囲気をつくれたらと思います。まだまだ至らぬところが多くあると思いますが、一生懸命頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。



大宮恵里子さんが、がん化学療法科に5年と、長く勤められていましたが、外来化学療法室の担当となり、がん化学療法科の外来には、川原さんに来ていただいています。顔なじみとなった方もいらっしゃるかと思いますが、川原さんには、がん化学療法科のマドンナとなるべく頑張りたいと思います(加藤)。

## 今年の家庭菜園予定

昨年に引き続き、今年も応募していた家庭菜園に当選しました。昨年、我が家でインパクトの強かったランキングでは、①ミニトマト(ものすごく沢山収穫できました)、②紫イモ(珍しいサツマイモで、甘みもあって良かった)、③メロン(実が熟してくるのを見るのが楽しみ)でした。その他にも、トウモロコシ、ジャガイモ、ナス、ネギ、ニンジン(昔食べた、ニンジンの味がした)、オクラ、二十日大根が取れました。今年は、インゲン豆、枝豆なんかもやってみたいと思います。どういう風に育つか、小麦や蕎麦も種を買ってあったのですが、撒くスペースがなかったので、今年は隅っこでも撒いてみたいと思っています。



野菜作りが得意な方がいらっしゃいましたら、是非、コツを教えていただければと思います。今年も、畑の作物の育ち具合をレポートしたいと思います。

## MEMO

### 5月のがん化学療法科の予定

5月3-6日	ゴールデンウィーク(後半)
5月10日	柴田教授外来
5月17日	新渡戸稲造祈念メディカル・カフェ
5月24日	柴田教授外来

今年は、鯉のぼりのセッティングをする頃に寒さが厳しかったのですが、風は強くて、よく泳いでいます。

